

国語だより その6

相良中学校 国語部

おくやま もみじふ わ しか
奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の

声聞くとときぞ秋は悲しき

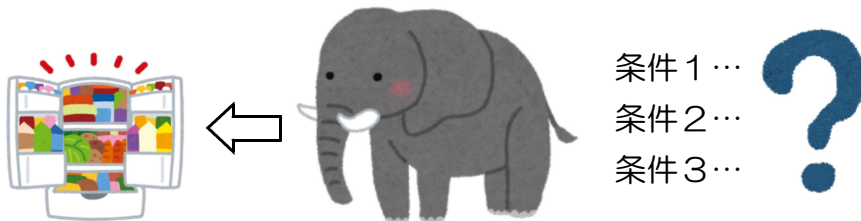
今日の一首は、「小倉百人一首」の五番、猿丸太夫の歌です。歌の内容は「山奥で散り落ちた紅葉を踏み分け鳴いている鹿の声に、秋の悲しさを強く感じる」というものです。

百人一首には、「好きな人と一緒にいられなくて寂しい」という意味の歌が多いです。この歌でも、鹿が鳴いているのは恋人を探しているからだと言われています。「ときぞ」という表現が、悲しさを強める働きをしています。この歌の訳としてはもう一つ、作者が山奥に入って鹿の声を聞いたという考え方もあります。



読書感想文をどう書くか②～選書編の2～

まずはクイズを。「ゾウを冷蔵庫に入れるための三つの条件を答えなさい」



答えは…1, ドアを開ける 2, ゾウを入れる 3, ドアを閉める でした。

当たり前ようですが、読書感想文を書くためにも、まず本を読むことが必要です。しかし、どんな冷蔵庫、いやいやどんな本でもいいというわけではありません。もしそうなら、こんな文章を書く必要なんかないはずですよ。では、どんな本を読めば読書感想文が書けるのでしょうか。

ポイントは「共感」です。主人公または登場人物のだれか、または作者や筆者に対して、「こいつ、いいな」とか「面白いな」と興味を持つことが大切です。「こいつの言ってること、すげえわかる」でもいいですし、「助けてあげたい」「教えてあげたい」もいいですね。そう思える作者や登場人物に出会えたら、読書感想文の8割は完成です。

本の中に友だちを作ること、と言い換えてもいいでしょう。本を読み進めながら、一緒になって一喜一憂できるようになったら、それがあなたの読書感想文になります。素敵な仲間と出会うには、たくさんの人と関わっていく必要があります。めんどくさがらずに、どうかたくさんの本を読んでください。

ちなみに、先生の最初の「友だち」は、エルマーでした。

